

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2374000384		
法人名	医療法人 静巖堂医院		
事業所名	グループホーム好日庵 (3階)		
所在地	愛知県新城市副川字大貝津13		
自己評価作成日	令和2年12月26日	評価結果市町村受理日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy-osvoCd=2374000384-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy-osvoCd=2374000384-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年2月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム1ユニットを開業して14年目を迎え昨年より2ユニットになりました。運営理念は「たとえ認知症になっても社会の中でかけがえのない一人の人間として最期まで尊厳を失わないで生きられるように支援する」です。14年間に11名の方の看取りを行いました。それを通して私たちの仕事の意味は何であるかを常に考えさせられます。認知症になって生きずらくなった方達の当たり前の普通の生活をあきらめず取り戻すこと、入所によって今までの生活を切り離すことなく、家族の方もホームの運営と一緒にいかかわっていただくことを大事にしています。今年度はコロナ禍により十分な活動はできなかったことも多いのですが、家族や家族同士のつながりを強くするため情報提供を今まで以上に丁寧に行ってきました。今後も地域の中でのGHの果たす役割や在り方を追求していきたい

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常に確認できるようスタッフルームに掲示して意識するようにして、課題にぶつかれば、自らを振り返り方向性を確認し実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染症に注意しながら、地域の防災訓練・バス停の清掃などのボランティア活動をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ラン伴の活動のアピールやキャラバンメイトとしてサポーター養成講座に参加して地域の方の理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	4月より新しい構成員で始まったが、新型コロナのため会議が開催できず書面にて情報を伝えた。自粛解除後は感染予防に注意しながら会議を行ったが、ホームの状況を伝えることで十分な意見交換までは至っていない		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	感染予防や疑問点などあれば、市町村や広域連合などに相談して意見を聞いて運営に生かしている。運営推進会議の報告を兼ねて情報を交換している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、ミーティングなどで事例検討を行い、本人の想いを受け止め寄り添うケアの在り方を実施し、職員で共有している。研修を行うことで認識を深める		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	報道などの事例から、職員同士話し合いの時間をもち、日頃から不適切な言動があれば注意を促した		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している家族は一組あるが、実際には利用者の経済的な問題についてどうなっているか、家族の方に聴くことは遠慮もあり難しい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	新しい利用者が3名あった。契約時専門的な言葉は気お付け確認しながら説明している。入居後も疑問や不安などはその都度対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に意見や要望などを伝えられる関係づくりに努め、管理者に報告して運営に反映している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の症とミーティング・定期ミーティングなどで意見交換している。職員からの自主性を重んじている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	一人ひとり職員の様子に常に気を配り声掛けを心掛けている。勤務表を作るときは、職員の希望を無理のない範囲に取り入れ作成している。キャリアアップの機会を与え協力体制ができるように配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	院内研修や外部研修に参加した方の研修報告書を読んでケアに生かしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営推進会議などにお互い参加して交流している。また東三河GH連絡協議会などで職員交換研修など企画しているが、今年度はコロナの影響もあり中断している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	今年3名の入所者さんがあり、入所当時は様々な問題が起きたが、その方の生活歴を配慮して信頼関係を築けるように努めることで、少しずつ環境に慣れ居場所ができることで落ち着かれている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族には当初不安がおおきいと思われるため、情報の提供や共有を密にして、ケアプラン作成時面会の時に要望を聞き出し反映できるように努めた		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	環境の変化によるダメージをより少なくできるように、入所時は事前訪問をおこない情報収集に努め、家族や本人の要望を聞き出し、職員で共有しサービス提供に生かしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は、本人を介護の対象ではなく、生活者として困っているところに関り本人の自立した能力を奪わない支援を心掛けるように話し合いを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームにおいては、家族の役割と職員の役割は明確に共通理解のもとに協働させている。家族もホームの運営に大切な一員として意見を聞きながら進めることが重要であると考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所時、今までの生活を断絶させないように支援している。馴染みの美容院、お店などに出かける機会を持てるように支援したいが、今年はコロナの関係で十分とは言えない		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がかかわるときに、入所者さん同士の関係性をつなげられるような配慮を行っている。利用者さん同士の関係や個性を把握し過度な職員の介入は控えながら見守っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入所者さんが亡くなった場合、その精神的なロスの過程で必要であれば関り、訪問などいつでも対応できる機会や時間を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	必ずその行動の裏には本人の表現できない気持ちがあることを理解し、カンファレンスなどで職員の意見交換を行いながら共有して支援に生かしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントにセンター方式を取り入れている。定期的に更新を行い得た情報を職員同士で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の申し送り、健康記録などの確認、センター方式の「私の気持ちシート」「できないことシート」わかることわからないことシート」で把握し共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランにおいては、毎月の実践記録を各担当者が個別にまとめて書き出し、ケアマネージャーはモニタリング時にその記録を参考にする。また介護計画時本人や家族と話す機会を持ち意見を取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランを日常的に職員に位置付けるために、ケアプランの短期目標を介護記録用紙に印刷して、記録においてはどの項目の支援であるか意識して書くようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	法人の持つ他職種や資源を活用し、利用者のニーズをどのようにしたら対応できるかGHならではの柔軟な発想を大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域にはたくさんの自然を生かした資源が多くあり、自然や季節を感じられる取り組みが行えやすい環境にある。また地域の小学校との交流も楽しみの一つになっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	法人の医院が併設していることもあり、かかりつけ医の関係は良好に行われ、また歯科医との連携も口腔衛生などの相談もしやすい関係にある。家族や本人の希望をきき相談しながら進めている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	管理者が看護師であることにより、身体的な問題に関してスムーズな支援を実践できている。医院の看護師からも適切なアドバイスを受けることができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんが、脳出血・肺炎・転倒による骨折等他の医療機関へ入院した事例が3件あった。入院時や退院時は情報提供はスムーズに行われ、訪問などにより関係づくりは円滑に行われている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に事前確認書をもらい家族と本人の意志を聞いている、また定期的にセンター方式を使い「私の気持ちシート」で本人の希望を確認している。終末期においては家族と本人も参加して担当者会議を開き、希望に沿うように支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変が予測される場合には、あらかじめその状況と対処の方法を職員に伝え、緊急時にはすぐに管理者、かかりつけ医と連絡が取れる体制をとっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に昼夜の災害をいろいろな場面を想定した避難訓練を実施している。月に一回災害職を食べながら備品のチェックを行っている。今年度はコロナの影響で地域の住民との合同訓練は実施できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いや声掛けの時に配慮している。また一人一人の自尊心を傷つけるような言動は、職員がお互いに特に注意シナがある接している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	その方の思いに気づけるよう心掛け、必ず本人の意志を聞いて自己決定できるような声掛けに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	特に夕食後から就寝までの時間は一日の振り返りの時間として大切に、安心して睡眠につけるよう心掛ける。歯磨き・就寝の支度などその方のペースに合わせて全体に配慮しながら、他の職員と連携しながら行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えの服を選びやすいように支援したり、身だしなみを整える支援。自己決定できるような支援を心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者さんと一緒に献立作りを行う。食事作り、買い物、後かたづけ等、その人の持つ能力を見ながらさりげない支援を行う		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	健康管理表を見て体重や排便などあるかどうか食事量などから判断して、必要な食事メニューを考えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の声掛けにより歯磨きを実施確認している。かかりつけ医に、月に一回口腔ケアチェック実施表を見ていただき助言をいただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	失禁の状態をチェック表を活用して一人一人歩排せつのリズムを把握して声掛けや誘導の支援を行っている。またパットなどの使用時は自立支援や環境づくりを心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	現在便秘薬を使用している人が一人。何とかして自然排便を促せるように、運動・食物繊維の多い食事・水分摂取・定期的な排便を試みるなどして現在工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴剤・しょうぶ湯・ゆず湯等楽しみのある入浴の工夫。入浴以外の日も希望時は入れるように配慮し、お湯の温度の好みなど合わせて提供している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時は安心して休めるように声掛けを行い、また昼夜問わず休息できるように空調や寝具調整などを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が薬の情報に目を通して把握している。管理は、外部薬局で委託しているが、わからないことがあれば薬剤師とすぐに相談できるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	散歩・編み物・草取り等、その日の天候や状況により、会話の中で入所者さんのお好みや楽しみなどの情報のもとに支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で今年度は外出を控えなければならぬ状況が続いた。感染に注意してドライブなど、少人数対応で実施した。紅葉を見たり足湯など楽しんだ。外出できない日は、ベランダで日光浴をし畑での野菜の収穫など楽しんだ		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは事務所で管理している。中には財布をもって小銭を入れて安心する方には、管理させている。外出時は自ら買い物できるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族と連絡が取りたいときは、いつでも電話ができるようにしている。またある利用者さんが孫が来た時のお礼にと手紙を書いて出したいと無事届けられるように支援した		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎朝利用者の能力に合わせた方法で、清掃の時間に参加してもらっている。ゴミ出しなどみんなで協力して清潔な空間や環境を作っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	静養コーナー・TV鑑賞などにソファ椅子などを置き落ち着けるような居場所づくりをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が自宅で使っていた物・使い慣れた筆筒・思い出のある置物・亡くなったご主人や家族の写真等飾り安心して過ごせるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室には表札をしてわかるように・トイレのドアの色を変えてわかりやすいようにしている。利用者にあつた杖・歩行器等利用して、居室の環境づくりに配慮して安全に生活できるように支援している		